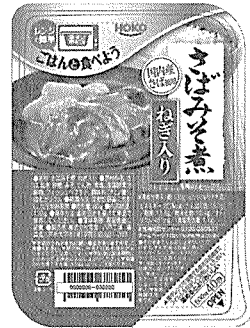


ジェットロがミャンマービジネス開拓ミッション、MCが参加

ジェットロはこのほど「ミャンマービジネス開拓ミッション」をミャンマーの首都ヤンゴンで開催した。参加事業者は36社(46人)、視察先では電気部品製造工場、靴製造工場、総合家電製造工場の見学会も実施して同国のインフラ、人件費、特恵関税、港湾についての意見交換も実施。その後、260ヘクタールの広大な開発予定地「ティラワSEZ」予定地の見学を行った。

昨年10月に行った日系企業アンケートでは、製造作業員の月額収入は53ドルと中国の1/6で、識字率の高さ、従順な国民性と日本ブランドへの敬意からジェットロ・ヤンゴンへの日本人事業者の訪問は前年度の3倍超、880人余と今期はさらなる増加を示している。ミャンマーへの日本人訪問者も11年度は2万人強で国別では5番目で12年度は5万人弱で2番目。一番多いのはタイからだが、タイからの入国者も50%の伸びだ。ミャンマーは最後のフロンティアとして最も注目を集めている地域で、このミッションに参加した(株)ミートコンパニオンは、和牛の市場性と近い将来の需要とニーズのリサーチ目的で参加した。ミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役は「和牛の潜在需要を強く感じた。ただし、現地の牛肉が50円(100g)、豚肉が70円(100g)と比較されないような日本の食文化や料理方法と同時に紹介する必要があると強調」した。商談会に訪れているバイヤーは日本に来訪している人たちが多く、焼肉や焼き焼きを地元で食べたいという人たちが多く見受けられた、さらに4人のバイヤーから購入の打診があったという。商談会の商品展示は、サーロインを原料としたステーキ、焼き焼き、網焼き、しゃぶしゃぶ用が並べられ、多くの人を集めていた。

日本ハムグループの宝幸が「楽チン！カップ」シリーズから8品



日本ハムグループの(株)宝幸では、9月1日から「楽チン！カップ」シリーズに電子レンジ対応の新商品8品を新発売する。同シリーズは、3年前に「三つの楽チン」―ふたが開けやすい・中身が出しやすいい・ごみの分別が簡単―をコンセプトに発売されたシリーズ。今回は新たにレンジ調理の簡便性を加えた

新商品8品を発売する。新たな簡便性を加えたことで、「楽チン！カップ」シリーズの新規顧客獲得による活性化を図る。今回発売する新商品は、単身者のおかずとしての需要を見込み、分量も1人前を想定している。

商品ラインアップは、和風総菜・洋風総菜・タイカレーの3カテゴリー計8品。和風は「さば味噌煮」「豚と大根の煮物」「鮭のみそ煮」の3品で、さまざまな食シーンで楽しめる。洋風は「牛タンシチュー」「鶏肉のチーズクリーム煮」「鶏肉のトマトソース煮」の3品で、そのままおかずとしてだけでなく、ご飯に混ぜればリゾットとして楽しめる。タイカレーは「グリーンカレー」と「レッドカレー」の2品で、本場タイで製造したものである。